

経営発展支援事業を活用した先輩農業者のすがた(初期投資【機械や施設を購入】されたみなさん)

【経営発展支援事業】

採択年度	営農類型	水田	野菜	果樹	酪農
令和5年(2024年)		京都府 山本 義久 さん			
令和4年(2023年)		山形県 秋場 淳克 さん 茨城県 赤塚 啓希 さん	青森県 匿名希望 さん 岩手県 中村 知宏・愛 さん 宮城県 (株)Punks Farmer 群馬県 匿名希望 さん 埼玉県 萩原 直人 さん 新潟県 本間 浩司 さん 岐阜県 田中 利昌 さん 愛知県 伊藤 和人 さん 三重県 津田 彰史 さん 滋賀県 満嶋 敏行 さん 兵庫県 祐尾 智紗美 さん 奈良県 山本 敏貴 さん 島根県 匿名希望 さん 山口県 匿名希望 さん 徳島県 川嶋 雄一・恵 さん 愛媛県 松本 昌人 さん 高知県 西村 郁弥 さん 福岡県 松本 恭平 さん 佐賀県 匿名希望 さん 長崎県 匿名希望 さん 熊本県 福本 巧 さん 大分県 匿名希望 さん 宮崎県 中島 笑里 さん	山形県 高橋 善祐・未来 さん 栃木県 中村 麻衣 さん 長野県 山岸 さん 静岡県 稲木 遊野 さん 石川県 大石 衛 さん 和歌山県 畑 篤志 さん 広島県 農事組合法人にじいろファーム	北海道 河合 佑奈・聖 さん

河合 佑奈さん・聖さん（33歳・34歳）

（営農類型：酪農）

新規就農を志した経緯・背景

牛、牛乳、酪農が大好きな二人。
海外等でたくさんの研修を経験し、放牧主体で新規就農先を探していたところ、小規模で放牧酪農が盛んな北海道せたな町へ研修に入ることになった。
町内酪農ヘルパー等を経て、令和4年4月から経営を開始した。

導入した機械・施設等

- ・パイプミルカー設置一式
（36頭、4ユニット）
- ・バルククーラー（2,000L）



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・第三者継承での就農であり、継承元で活用していた農機具等を最大限利用し初期投資を抑えた。
- ・パイプラインミルカーは、経営5年目に更新予定だったが、経営発展事業を活用し、前倒して導入し自己負担額の軽減を図った。

導入の効果

- ・経営発展に必要な機械・施設を導入したことで、早期の経営安定、規模拡大に繋がった。
- ・今後は段階的に設備投資や規模拡大を行い、就農9年後には就農時からの農業収入230%増を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（H23～R4）

- ・平成23年から道内外の牧場で研修。
- ・河合佑奈氏は平成31年に3ヶ月間、ヨーロッパ5カ国の牧場で研修。
- ・両氏について、酪農ヘルパーとして就労経験あり。
- ・家畜改良や安定した牧場管理の方法、酪農畜産経営に関する知識を取得。

現在（就農2年目）

経産牛27頭

- ・経営継承をスムーズに行ったことなどにより、計画より飼養頭数の増加が図れている。
- ・個体販売価格の暴落も生乳生産量でカバーし安定経営に繋がっている。

今後の目標（就農10年後）

経産牛29頭

- ・土壌分析をもとに肥培管理を行い、飼料自給率向上を目指す。
- ・放牧酪農への移行を目指す。

匿名希望さん (40歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に15年勤めていたが、ものづくりや自営業にあこがれ、実家でやっている農業に興味を持つようになった。

地元ではトマトの生産者が増加しており、高収入が見込めると考え、地元の営農大学校で新規就農者向けの研修を受講し、令和4年に親と別部門で独立・自営就農した。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス120坪 2棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・所有するハウス1棟について、JAトマト部会員に働きかけ、中古のハウスを見つけて自力施工するなど、できるだけ初期投資を抑えるようにした。
- ・資金計画を作成する際に、役場や普及指導員に相談しながら整備内容を検討し、経営発展支援事業や町単独事業を組み合わせることで自己負担額を抑えた。

導入の効果

- ・ハウスを増設することにより、トマトの出荷期間が延長し、8月～11月初めまで出荷が可能となった。
- ・今後は収量の向上と面積拡大を図っていくことで、就農5年後の所得目標達成を目指す。

就農の状況と今後

現在（就農2年目）

トマト(360坪) 11.88a
ミニトマト(80坪) 2.64a

- ・前年に事業で整備したハウスでトマトを作付開始。
- ・ミニトマトは契約栽培により経営の安定化を図っている。

今後の目標（就農5年後）

トマト(720坪) 23.76a
ミニトマト(80坪) 2.64a

- ・ハウスの整備を計画的に進めていく。
- ・自動灌水装置の導入で省力化を図る。
- ・農業所得260万円を目指す。

就農準備（R2～3）

- ・令和2年に会社を退職し、親の農業経営（水稻、にんにく）に1年間従事した。
- ・令和3年に営農大学校主催の新規就農者向けの研修を受講し、先進農家でトマト、ミニトマトの栽培技術を学んだ。

中平 知宏さん・愛さん (26歳・27歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

幼いころから慣れ親しんだ農業への関心が高まり、農業大学校へ進学。将来を見据え県内の大規模農場へ就職し、栽培技術等を習得。農場での経験が自身で経営展開することへの意識を一層高めた。また、これまで祖父が主要な作業従事者であったが、高齢化に伴い継承を決意し、令和4年に経営を継承、経営開始。

導入した機械・施設等

- ・ライムソーワ 1台
- ・バーチカルハロー 1台
- ・オフセットシュレッター 1台
等



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・雇用就農した大規模農場における作業体系をもとに、実家で経営していた少量多品目から機械体系でできる品目に絞った経営を計画。
- ・主要品目をベースに輪作体系を考慮の上導入する品目を決定し、必要な機械を選定。雇用就農した大規模農場における機械体系を参考に、必要最低限の機械導入を実施。

導入の効果

- ・機械導入により、効率的な土づくりが可能となり、生産量の増加が期待できる。また、雑草防除や輪作地での緑肥処理も可能となり、よりよい土づくりが可能となった。
- ・フォークリフトの導入により小コンテナからスチールコンテナにし、出荷作業の省力化・効率化が図られた。

就農の状況と今後

就農準備 (R3～4)

- ・県立農業大学校を卒業後、県内の大規模農場で研修。
- ・研修先では、主に収穫、出荷作業、畑づくりなど機械作業に従事。
- ・市の担当者や普及員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

長芋60a、ネギ30a、トウモロコシ30a、加工用トマト60a

- ・事業で作業機械を導入し作業効率が向上。
- ・販売額は低下したが、生産効率の向上により利益は増加。
- ・農業所得は約180万円。

今後の目標 (就農5年後)

長芋75a、ネギ30a、トウモロコシ50a、加工用トマト80a

- ・理想的な輪作体系構築のため、長芋を主要品目に規模拡大を進める。
- ・農業所得は約420万円。

(株) Punks Farmer

代表取締役 早坂 亜由美さん (41歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

消費者として購入したミガキイチゴの品質の高さに感銘を受けたことがきっかけとなり、山元町にて2年間の研修後、令和4年に経営開始。ICTを活用して生産性の高い経営を行うことで農業に対するイメージを変え、農業の道へ進む次世代の若者や女性を増やしたいという思いで新規就農を決断した。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス 2棟
(親株・育苗用)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始前に事業計画を作成し、必要な設備投資の精査を行った上で、補助事業や制度資金を組み合わせる必要な施設・機械を導入した。
- ・ハウスの建設にあたっては、研修先や先輩農家に相談し、整備内容を検討した。

導入の効果

- ・就農1年目は、すべて購入した苗で栽培を行ったが、パイプハウスの導入により、自社の苗で栽培できるようになり経費削減につながった。
- ・今後は毎年の栽培データを蓄積し、適宜栽培方法の見直しを行いながら就農5年後の所得目標達成を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (R2.7~R4.6)

準備型を活用し、2年間の研修

- ・実地及び座学研修にて栽培技術を習得。
- ・せんだい次世代農業経営者育成ゼミへの参加 (R3)。
- ・農地取得について関係機関へ相談し、青年等就農計画を作成。

現在 (就農2年目)

イチゴ養液栽培 20a
(鉄骨ハウス1棟、育苗ハウス2棟)

- ・R5年より事業で建設したハウスの親株から採苗して栽培開始。
- ・市場出荷の他、SNSを活用して広報を行い直売を行っている。

今後の目標 (就農5年後)

イチゴ養液栽培 20a
(鉄骨ハウス1棟、育苗ハウス2棟)

- ・法人のブランドイメージを向上させ、安定収入を確保。
- ・栽培データを活用し作業の効率化を進める。
- ・農業所得の目標は553万円。

秋場 淳克 さん (37歳)

(営農類型：水田)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に14年ほど勤めたのち、農業をする親の手伝いを2年ほど行いながら栽培技術を習得。自然を相手にする難しさや楽しさ、自分の努力が直接かえてくことに魅力を感じ、令和4年に経営を継承、経営開始。

導入した機械・施設等

- ・色彩選別機



初期投資を行う上で留意したポイント

継承した経営を安定発展させるにあたり、現状改善等を含めてどのようなものを整備するとよいか、サポーターとなっている地元農業者や県農業技術普及課等へ相談した。

導入の効果

色彩選別機を導入することで、作業の効率化が図られ、作業に係る労力が低減したほか、高品質米出荷の安定化につながり、当初の計画を上回る所得を得ることができた。

就農の状況と今後

就農準備（H31～R3）

親からアドバイスをもらいながら、水稻・果樹栽培に関する技術・経営を学ぶ。

現在（就農2年目）

水稻900a さくらんぼ70a
花き7a ほか

- ・農業経営を継承し、両親ならびに短期の雇用者により生産。
- ・導入機械により、生産向上をはかる。

今後の目標（就農5年後）

水稻1000a さくらんぼ70a
花き7a ほか

- ・機械化や規模拡大を目指す。
- ・果樹の新植、新品種への更新をはかる。
- ・農業所得目標は500万円。

高橋 善祐さん・未来さん (34歳・35歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

出身地である高畠町が、高品質なぶどうがとれる理想の地でありながらも、高齢で後継ぎがない事例も多く急速な産地の衰退を肌で感じ、自分たちにできることはないかと考え、令和4年に経営開始。農業生産を通じ、おぼこ(山形県の方言で「こども」の意味)世代に「ぶどうのある故郷の風景」を残したいと考え、農園名をoboco grapesと名付けました。ぶどう栽培を通じて3つのことを実践したいと考えています。1つは、おぼこ(童心)に戻るような、わくわくするモノコトづくりの実践。2つめは、おぼこのように愛情をもってぶどうを育て、お客様のもとに送りだすこと。3つめは、おぼこが継ぎたくなるような、(精神的にも経済的にも)豊かな農業の実践です。

初期投資を行う上で留意したポイント

- ・重要度と緊急性を考慮し優先順位をつけて設備投資を行いました。
- ・実際に同種の機械を導入している近隣のぶどう生産者へのヒアリングなどを実施したうえでメーカーと製品を検討しました。

導入した機械・施設等

- ・ぶどう雨除けハウス 1棟
- ・スピードスプレーヤー
- ・乗用モア



導入の効果

- 【SS】・作業時間手散布に比べ30%減。
・夏季期間の作業負荷低減による熱中症の防止。
- 【乗用モア】・下草の適正管理による病虫害リスクの予防。
- 【果樹棚】・屋根被覆による病害の低減と経営の安定化。
・果樹棚雨よけ一体型仕様のため棚締めが不要となりメンテナンスが容易に。

就農の状況と今後

就農準備(R2~R3)

- ・大手ワイナリーの自社圃場管理業務に携わり技術を取得。
- ・JAや普及員、町から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- ・農業機械の作業免許取得。

現在(就農2年目)

ぶどう、醸造用ぶどう 136a

- ・事業で雨除けハウスの整備や農業機械の導入を進め、経営規模を拡大。
- ・農業収入は約630万円(計画比105%)、農業所得は約35万円(計画比74%)。

今後の目標(就農5年後)

ぶどう、醸造用ぶどう 136a

- 農業収入24,932千円
- 農業所得10,162千円
- ・高付加価値品種への植替。
- ・生食ぶどうの単価上昇のための新たな販路開拓。
- ・ワイン委託醸造と着実な販売。
- ・MQ会計の活用による生産体制の把握と効率化に向けた仕組みづくり。

赤塚 啓希 さん (38歳)

(営農類型：水田)

新規就農を志した経緯・背景

- ・農業法人に勤めながら、実家の水田で水稻の作付けの手伝いをしていた。
- ・近年、地元で離農する農家が増えるなか、地元に貢献したい気持ちが強くなっていき、就農を決意した。
- ・農業法人での経験を活かし、水田で高収益作物(馬鈴薯、甘藷)を作付けし、広い土地を利用した土地利用型経営を開始した。

導入した機械・施設等

- ・トラクター 100ps 1台
- ・ロータリー 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・当初は、勤め先だった農業法人から機械を借りて対応できると考えていたが、離農する農家から耕作を依頼されることが多くなり、今後、急激に面積が増えることが予測できたため、このままでは対応することが難しくなると感じていた。
- ・そこで、作付面積の増加及び作業の効率化に対応するため、クローラー型のトラクターを導入した。

導入の効果

- ・クローラー型トラクターを様々な作業に活用した結果、導入前に比べ単位面積当たりの労働時間を削減することができた。
- ・導入した機械を活用した作業体系で、1年を通して農作業のスケジュールを立てることで、これからの規模拡大に向けた計画が具体化し、心身ともに余裕が出来た。

就農の状況と今後

就農準備 (H21.4～R4.3)

- ・農業法人で技術習得。
米・麦・馬鈴薯・そばの栽培作業、
機械のオペレーター。
- ・R3年度に町役場、普及センター
からアドバイスを受け、青年等就農
計画を作成。

現在 (就農1年目：R4)

- 馬鈴薯 0.5ha 甘藷 0.4ha
- ・経営発展支援事業でトラクターを
導入。
 - ・青年等就農資金を活用し、融資を
受ける。
 - ・所得116万円。

今後の目標 (就農5年後：R8)

- 水稻 23ha 馬鈴薯 5ha
小麦 5ha 甘藷 0.5ha
- ・馬鈴薯の契約販売先を1社→2社に
拡大する。
 - ・所得目標は2,000万円。

中村 麻衣 さん (40歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

北海道出身で子供の頃から農家への憧れもあり、ブルーベリー狩りで食べた果実のおいしさへの感動と「お客さんに喜ばれる農家になりたい」との思いから就農を決意。県の農業振興事務所へ相談したところ、引退される農家とマッチングでき、JAなす南の研修制度を1年間活用し、令和4年度に第三者継承、経営を開始した。

導入した機械・施設等

- ・果樹棚(12a)
- ・梨苗木(200本)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・初期投資を抑えるため、機械も継承者から賃貸借で対応。
- ・経営の安定を図るため、補助事業を活用し、初期投資の軽減を図った。
- ・キャッシュフローを作成し、支払期限の延長等農協の協力・支援のもと運転資金等の借入の低減を図った。

導入の効果

- ・第三者継承により、引退する農家から果樹棚を継承できたことに加えて、経済樹齢を超えた園地もあることから、事業で新たに果樹棚を整備(ジョイント栽培)したことで、早期の成園化も可能となり、今後の収量増加が見込めるようになった。

就農の状況と今後

就農準備(R3)

- ・令和3年に南那須農業アカデミーで研修開始。
- ・JA、市や県のサポートを受けながら第三者継承契約の準備や青年等就農計画を作成。

現在(就農2年目)

りんご 68a
梨 58a
もも 5a

- ・JAや直売所へ出荷とともに観光農園を運営。
- ・農業所得は約350万円。

今後の目標

りんご 68a
梨 70a
ブルーベリー 30a
もも 5a

- ・旬のものを楽しんでもらえる観光農園を運営。
- ・農業所得の目標は約600万円。

匿名希望さん (46歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業で約18年勤めてきた中で事業主としての独立を考えるようになり、普及センター主催の農業体験会に参加したところ農業経営への魅力を強く感じ、自治体やJAの協力的なサポートもあり新規就農を決意。

1年間、近隣農家のもとで実作業の経験を積みながら農林大学校の「ぐんま農業実践学校」に通って就農準備を進め、令和4年春に営農開始。

導入した機械・施設等

- ・トラクター 1式 33ps
- ・マルチャー 1台
- ・野菜苗移植機 1台
- ・マルチスプレーヤ 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・「農業経営の長期継続」と「将来的な規模拡大」を目的とし、露地野菜の栽培や圃場管理を行う中で汎用的に使える機械を対象とした。
- ・繁忙期であり身体的な負荷が高まる夏場に、秋冬野菜の準備（土づくり、播種、育苗、定植）や管理（除草、防除）をどれだけ効率的に行えるかが課題で、そのために必要な機械を優先して導入した。

導入の効果

トラクターと作業機一式（ロータリー、スライドモア、コンポキャスト）、マルチャーの導入により、圃場管理や土づくりの作業効率が上がり、経営規模の早期拡大を行うことができた。

野菜苗移植機やマルチスプレーヤの導入により、ブロッコリー苗の定植やナス防除作業の効率が飛躍的に上がり、体への負荷も軽減したことで、繁忙期を無理なく乗り切ることができた。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4.3）

- ・令和3年に研修開始。
- ・近隣先輩農家による実地指導。
- ・「ぐんま農業実践学校（野菜専門技術課程）」受講。
- ・普及員やJAからアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- ・先輩農家の紹介で農地と作業場を確保。

現在（就農2年目）

ナス 10a ズッキーニ 13a
ブロッコリー 20a
ちぢみホウレン草 12a

- ・導入した機械の活用により計画を前倒して経営規模を拡大。
- ・農業所得は約270万円。
（当初計画の5年目水準）

今後の目標（就農5年後）

ナス 10a ズッキーニ 20a
ブロッコリー 60a
ちぢみホウレン草 10a

- ・ブロッコリーの栽培面積を拡大し各月の作業時間と売上の平準化を図っていきたい。
- ・農業所得の目標は400万円。

萩原 直人 さん (31歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

- ・幼少時から親しんだ祖父母の畑は、今ではアパートに変わり、自家近くでは辞めてしまった農家も少なくない。そんな現状を目の当たりにした時、農業は高齢化が進み若い人がいない、それなら自分が農業をやってみよう、そう決意して……。
- ・農業法人で施設野菜栽培の実務に3年従事した後、県農業大学校で1年間、野菜の基礎技術を学んだ。大学卒業後、久喜市明日の農業担い手育成塾に入塾し、2年間、露地野菜と施設きゅうりの実践研修を行い、令和4年7月に経営開始。

初期投資を行う上で留意したポイント

- ・研修中、作付計画や販売計画を作成し模擬販売を行ったが、計画通りにいかない現実直面した。経営を安定させるためには、年間通して安定した生産計画をしっかりと練る必要性を痛感し、市、農林、公庫と十分に相談を重ね、施設の導入を行った。
- ・鉄骨ハウスの導入に当たり、種苗メーカー、JA、指導農家と相談を重ね、きゅうり栽培に必要な設備を十分に検討した。

導入した機械

・施設等

- ・鉄骨ハウス15a
- ・暖房機・循環扇
- ・井戸・ポンプ



導入の効果

- ・天候の影響を受けにくい。
- ・年間通した安定生産。
- ・高品質なきゅうり生産により収益確保。



就農の状況と今後

就農準備 (R2～3)

- ・令和2年から研修開始。
- ・担い手塾で指導農家や種苗メーカーのサポートを受け、技術を習得。
- ・普及指導員からアドバイスをもらい、青年等就農計画を作成。

現在 (就農3年目)

- 施設きゅうり15a
露地野菜5a (市場出荷中心)
- ・R5.3月に経営発展支援事業により新設した鉄骨ハウスにて、施設きゅうりの栽培を実施。
- ・施設きゅうりの安定生産、収量向上を目指す。

今後の目標 (就農5年後)

- 施設きゅうり15a
(年間収量30t / 10a)
- 露地野菜 5a
- ・きゅうりの安定生産。
- ・規模拡大(現状の2倍)に向けた雇用導入。
- ・目標農業所得350万円。

山岸 さん (34歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

全国的に農業者の高齢化や樹園地面積が減少していくなどの背景から、地元の重要な産業としてこれからも守っていきたいという思いを持ち始めました。さらに、長野県内では非農家の新規参入も積極的に受け入れているという状況を知ってから自分自身でやりたいと思うようになりました。

導入した機械・施設等

- ・ぶどう棚20a



初期投資を行う上で留意したポイント

研修先の農家の仲介により、経営開始のタイミングで既存園に隣接した農地を借り受けることができたため、経営の安定化や今後の農地集約を考慮した上で適切なぶどう棚を、導入した。

導入の効果

- ・ぶどう棚を新設したことにより今後の経営の見通しがついた。
- ・成園と養成園を持つことで改植をスムーズに行い、経営の安定を図る。
- ・農地を集積したことで、特に防除や草刈りなどの作業を効率的に行えた。

就農の状況と今後

就農準備（R2～3）

- ・長野県の里親研修制度を利用し令和2年に研修開始。
- ・県や市から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- ・貯蓄により生計を維持。

現在（就農1年目）

- 露地ぶどう50a
- ・農業所得419万円。
- ・本人、両親での家族経営。
- ・販売先はJA、小布施産直グループ。
- ・品種はシャインマスカット、巨峰、ナガノパープル。

今後の目標（就農5年後）

- 露地ぶどう60a
- ・農業所得350万円目標。
- ・本人、両親での家族経営。
- ・販売先はJA、小布施産直グループ。
- ・品種はシャインマスカット、巨峰、ナガノパープル、クイーンルージュ®。

稲木 遊野 さん (28歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

大学生のころ、父から紹介されたみかん農家から「自分の作った作物を食べて、美味しいと言ってもらえる、やりがいのある仕事」と聞き、自身もみかん生産に挑戦したいと思った。

大学卒業後、農研機構果樹研究所（興津）で栽培技術を学んだ後、浜松市のみかん農家における研修（雇用）を経て、令和4年度に就農。

導入した機械・施設等

- ・農業用運搬車
- ・ウッドチップパー
- ・自走ラジコン動力噴霧器
- ・乗用草刈機
- ・肥料散布器



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始時には園地の6割が幼木であったため、成木になった時の作業量を意識して導入する機械を選択した。
- ・研修先とは違い少人数で作業することが多いと考え、研修先や農機具メーカーと相談しながら、少人数で効率的に作業できる機械を導入した。

導入の効果

- ・補助金を活用することで、就農当初に最低限必要な規格の機械ではなく、5年後の生産量拡大を見据えたスペックを備えた機械に投資ができたため、現時点でも効率よく作業ができている。
- ・今後は、地域内外のみかん農家から技術を学び、就農5年後には所得400万円を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（H30～R4）

- ・平成30年から、農業次世代投資事業（準備型）を活用し、農研機構果樹研究所（興津）で研修。
- ・令和2年からは、県に紹介された株日下農園で研修（雇用）。
- ・県及び市から補助金等の情報をうけつつ、青年等就農計画作成。

現在（就農1年目）

温州みかん200a

- ・農地は、地域の規模縮小する農業者から、研修先が一時借り入れて管理した園地を譲りうけて確保。
- ・労働力は、本人と臨時雇用4名。
- ・生産量は、計画で約28tのところ、実績(概算)で約45t収穫した。

今後の目標（就農5年後）

温州みかん200a

- ・幼木の管理を徹底し、早期に成園化させて生産量を増加させる。
- ・生産量の増加に備えて、みかんの貯蔵用の倉庫を新たに確保する。
- ・農業所得の目標は約400万円。

本間 浩司 さん (44歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

昔からいちご農家である親の手伝いをしていて、いずれ自分で美味しいいちごを消費者に届けたいと思っていた。民間企業に22年勤めていたが、父親の高齢化により農作業を手伝うことが増え、父親も引退を考え始めるようになったため、就農を決意。本格的な経営開始前に親元で栽培技術を学び、令和4年に経営を継承、経営開始。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス 1棟
- ・いちご高設栽培装置
- ・暖房機
- ・その他附帯設備



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営を継承にあたって労働力が増えるため、更なる経営の発展に向けてハウスを増棟することとした。
- ・資材が高騰する中、投資の効果が最も発揮される内容となるように父親、JAと相談した中で事業計画を作成した。

導入の効果

- ・ハウスの増棟により、既存ハウス含め全体的な収量・所得の増加が期待される。
- ・経営を継承したことにより、経営者としての意識が芽生え、日々の生育管理に加え、経営面についても意識するようになった。

就農の状況と今後

就農準備 (R3~R4)

- ・父親の経営を手伝いながら、栽培技術を習得。
- ・JA、市へ活用可能な補助金について相談。
- ・認定新規就農者となるために、JA、市、農業委員会、県普及指導センターとワンストップ相談のうえ、青年等就農計画を作成。

現在 (就農2年目)

- いちご25.92a (ハウス7棟)
他メロン、苺苗、ネギなど
- ・事業でハウスを1棟 (4.05a) 増設し、父親の経営規模から拡大。
 - ・父親中心に指導や助言を受けながら、R4から農業経営を開始。

今後の目標 (就農5年後)

- いちご29.97a (ハウス8棟)
他メロン、苺苗、ネギなど
- ・さらなる所得向上、面積拡大等に向けた取組 (ハウス増設)
 - ・父親の栽培技術をすべて習得し、農業収入2,000万円を目指す。

大石 衛 さん (48歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

地元の農業協同組合に勤務する傍らぶどう農家である親の手伝いをしており、いずれ自分が親のぶどう園を継ぐと思っていた。親が高齢により農業経営を移譲したい意向であることから就農を決意。令和4年に経営を継承、経営開始。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス（単棟）2棟
- ・スピードスプレーヤー
- ・棚下作業台車



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・前職で培った農業経営アドバイザーの知識を活かし、計画的に安定した経営を目指すために収支計画を作成した。
- ・繁忙期でも休日を確保できるよう、品種構成、作型を検討し、加温作型のための単棟ハウス2棟の導入を決めた。

導入の効果

- ・背負い動力噴霧器からスピードスプレーヤーによる防除に替えたことで、防除に係る作業時間を短縮できた。
- ・デラウェアを減らし、大粒品種を増やすことでジベレリン処理や収穫した果房の調整、箱詰時間が削減する見込み。
- ・単棟ハウスを増設することにより、大粒品種の加温作型を開始し、作期の分散、盆前の高単価果実販売が可能となる見込み。

就農の状況と今後

就農準備（H30～R3）

JA・市・県の農業普及指導員が連携して補助金・資金の活用について支援！

現在（就農2年目）

- ・農業協同組合職員として働きながら親のぶどう栽培を手伝い、栽培技術を勉強。
- ・前職勤務時に就農に役立つ資格を取得
- ・JAや普及員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

ぶどう80a
（連棟ハウス18棟、単棟ハウス2棟）

- ・令和4年度に農業経営を開始。
- ・事業で単棟ハウス2棟を増設し加温作型を開始（苗木新植）。
- ・農業所得は約345万円。

今後の目標（就農5年後）

ぶどう80a
（連棟ハウス18棟、単棟ハウス2棟）

- ・デラウェアを減らし、大粒ぶどうの割合を増やす。
- ・加温作型のぶどうが収穫可能となる。
- ・農業所得の目標は800万円。

田中 利昌 さん ^{50歳} (※就農時49歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

両親が兼業農家で、体を動かして作物を作ることに興味があり、安全でおいしい食物を自身の手で作りたいと考え農業を始めようと考えた。また、両親が農地を持っており、それを有効に活用したいと思った。自身の仕事のキャリアの中では小売業の責任者であった期間が長く、作業の計画を立て、作業量を見積り、効率よく実施できるよう準備することが得意で、農業はそういったスキルを活かせると考えた。

導入した機械・施設等

- ・ミスト噴霧設備一式
- ・循環扇一式



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・費用対効果が充分か検討した。
- ・気温・湿度等は自動で計測し、ビニールハウス内が作物に最適な環境となるよう制御できる仕組みを導入した。

導入の効果

- ・乾燥する時期にも光合成に適した飽差（気温と湿度のバランス）を維持することで、就農2年目の目標9,000kgを上回る、10,400kgもの生産量を確保することができた。
- ・空気を定時に攪拌することで過湿による病害を防ぐことができた。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4）

- ・JA全農岐阜いちご新規就農者研修施設で栽培・経営技術を取得。
- ・研修先や県など関係機関からアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。



現在（就農2年目）

施設野菜（いちご）18a
生産量10,400kg

- ・青年等就農計画のとおり就農。
- ・作物の様子をよく観察し、迅速に対処することを心がけている。



今後の目標（就農5年後）

施設野菜（いちご）18a
生産量12,000kg

- ・施肥、環境制御について日々記録、分析し収量の維持・増加に向けた改善を行っていく。
- ・効率向上に資する設備機器の導入を検討していく。

伊藤 和人 さん (34歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

- ・農業は、生まれ育った地域に根差し、「食」という人が生きる土台を支える職業だと思っていた。教職に就き、子供たちと触れ合う中で教育と日本の未来について考えるようになり、後継者不足や農地の荒廃、食の安全性等、教育以前に人を支える食の基盤を作っていくことがこれからの人と日本の未来を守り作り上げていくことに繋がると考えるようになり、両親が営む農業を継承することを決めた。

導入した機械・施設等

- ・キャベツ貯蔵用冷蔵施設 8坪等



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・近年顕著な不順な天候に対処するとともに、契約先の細かな要望に積極的に応えられる環境を整える。
- ・労働力に限りのある家族経営での生産量を踏まえ、貯蔵施設の規模を検討。出荷率を上げることでより収益を増やす。

導入の効果

- ・キャベツ貯蔵用冷蔵施設の導入により、収穫したキャベツを一定期間貯蔵することで、出荷期間の延長が可能となり、契約量を増やすことができた。
- ・天候に左右されることなく、計画的な出荷が可能となり、労働環境の改善に繋がった。

就農の状況と今後

就農準備 (H30~R4)

- ・農業経営士でもある親元に就農し、農業に従事しながら、栽培技術、販売、経理等の知識を親から学ぶ。
- ・市、県のサポートを受けて青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

- ・親の農業経営を継承。
- ・キャベツ
経営面積 470a
販売量 366t
- ・キャベツ貯蔵用冷蔵施設を導入し、販路拡大に取り組む。

今後の目標 (就農5年後)

- ・キャベツ
経営面積 470a
販売量 400t
- ・契約キャベツを経営の柱に捉えた確実販売による安定的な農業経営を確立する。

新規就農を志した経緯・背景

沖縄のマンゴー農園でお手伝いをしたことがきっかけで、農業の魅力を知り、前職でのコロナ禍の影響もあり思い切って地元に戻る決心をした。観光農園等での雇用型就農を志すも条件に合った就農先が見つからず悩んでいたが、同じ伊賀市でイチゴの観光農園に取り組む農業者と出会い、研修を受けることに。研修先の紹介で手ごろな農地が見つかり、独立自営に至った。

導入した機械・施設等

- ・加温機 2台
- ・炭酸ガス発生装置 2基
- ・いちご集出荷施設及び
農機具格納庫 1棟
等



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・必要な施設等を可能な限り整備することで、目標の所得をあげられるように考えた。
- ・パイプハウスや高設栽培システム等の設備は借入金を活用して導入し、返済が無理なくできるよう規模や精度等を精査し、事業費の縮小に努めた。

導入の効果

必要な機械と設備は、研修先の先輩農業者と普及センターのアドバイスを受けて導入した。

伊賀市は県内の他の地域に比べて日照量が少なく、気温も低いので、特に加温機と炭酸ガス発生装置の導入は、収量の確保につながっている。

就農の状況と今後

就農準備 (R3.4月～R4.6月)

- ・令和3年6月に研修開始。
- ・イチゴの育苗、栽培管理方法を先進地農家で習得。
- ・令和3年12月に農地の利用権設定。
- ・令和4年3月に青年等就農計画の認定を受ける。
- ・令和4年7月に就農。

現在 (就農1年目)

高設栽培イチゴ 17a
水稻 (作業受託) 36a
生産量 (イチゴ) 2,265kg

- ・融資等でハウスを2棟新設。
- ・水田用の農業機械は無償で借受。

今後の目標 (就農5年後)

高設栽培イチゴ 17a
水稻 (作業受託) 60a
生産量 (イチゴ) 5,950kg

- ・高品質イチゴの栽培。
- ・贈答用を専門とする青果店等への販路拡大。

満嶋 敏行 さん (42歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

高校卒業後、一般企業に20年間勤めていたが、自身の子どもがいちごをおいしそうに食べる姿を見て、農業に興味を持ち、就農を決意。その後、農業法人で1年間知識・経験を積み、R4年度に経営を開始。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス 5棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・将来を見据え、経営を安定させるには初期投資をしっかりと行うことが重要だと考えた。
- ・理想とする経営像を実現するために必要な初期投資を近隣地域の事例等から分析し、普及員と積極的に意見交換を図りながら機械・施設の導入を検討した。

導入の効果

- ・パイプハウスを5棟新設することで同一時期に複数品種の栽培が可能となり、他のいちご農家との差別化を図ることができた。
- ・高強度ハウスの新設により、自然災害に対し安心して就農することができた。

就農の状況と今後

就農準備 (R3~R4)

- ・農業法人で研修を受け、独立への道を模索する。
- ・関係機関と設備投資内容や補助事業について意見交換を行いながら営農計画を作成。



現在 (就農1年目)

- ・いちご20a (ハウス5棟)
- ・新品種みおしずくの栽培に取り組み、新しいことに積極的にチャレンジしている。



今後の目標 (就農5年後)

- ・ぶれずに品質を高めることにこだわり、更なる規模拡大を目指す。
- ・SNSや口コミによる集客で県内有数の観光型いちご農園を作り上げる。

山本 義久 さん (47歳)

(営農類型：水田)

新規就農を志した経緯・背景

親の農業を手伝い深く関わる中で、地域内での関わりも通じ、地域内の高齢化による後継者不足や担い手不足を肌で感じ、危機感を覚えたことで、地域に根付いた農業を行い、地域を守っていききたいと強く感じ「農業を基軸にした地域づくり」の取り組みに参加することで、地域のためにも地域内の農地を守るため就農を決意した。

導入した機械・施設等

コンバイン
農機具格納庫



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・就農計画を作成する中で、将来を見据えた初期投資を行う必要があると考え、必要な機械・施設を導入した。
- ・今後の目標の経営規模を見据えた機械・施設を導入するため、機械・施設の選定にあたっては、地域の先輩農家から助言をもらいながら検討した。

導入の効果

- ・コンバインの導入により、経営面積の拡大に対応可能となった。
- ・段階的に経営面積を拡大し、農業所得向上を図る。

就農の状況と今後

就農準備（R3～5）

- ・地域の農家のもとで2年間水稻栽培や農機具の取り扱いや販路等々研修を受けた。
- ・地域との関わりの中で農地の集積を進めた。

現在（就農1年目）

- コシヒカリ 460a
京の輝き 190a
- ・経営発展支援事業でコンバインと農機具格納庫を導入。
 - ・水稻【京の輝き】を新たに導入し、経営規模拡大を図る。
 - ・地域内の農地の受け手となり、効率的な集積を行っている。

今後の目標（就農5年後）

- コシヒカリ 880a
京の輝き 320a
- ・空き農地を積極的に引き受け、地域の担い手として経営を確立させる。

祐尾 智紗美 さん (40歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

約10年間、世界を放浪した経験があり、23歳の時オーストラリアで出会った野菜農家で働いたことから農業への思いが芽生える。現地でよく開かれるファーマーズマーケットで、手がけた野菜や果物を誇らしげに語る有機農家さんに触れる中、人の暮らしや食の本当の豊かさを実感し、有機農業を通じて「豊かな暮らしのお裾分けがしたい」と就農を決意。

導入した機械・施設等

- ・ パイプハウス (1.8a)
- ・ ハンマーナイフモア (刈幅800mm)
- ・ 保冷库 内容量 (1201ℓ) 2台
- ・ 管理機・マルチャー (5.0馬力)
- ・ 掘り取り機 (掘取幅110cm)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・ 有機農業および少量多品目経営といった営農形態に適した機械や施設、必要な能力については、親方農家や普及センターからのアドバイスを受けながら選定。

導入の効果

有機農業の大変さの1つが雑草管理。ハンマーナイフモアを導入することで草刈りが格段に楽になるとともに、雑草を細かく粉碎してくれるため、そのまますき込むことも可能に。

また雑草抑制に必要なマルチ張りもマルチャーを導入することで作業効率が格段にUP！

就農の状況と今後

就農準備 (R1～3)

- ・ 令和元年、インターネット等で研修先を探し、直接兵庫県内の有機農家に申し込み、研修開始。
- ・ 週4～6日のペースで通いながら、自分の畑で復習。
- ・ 親方農家での研修と同時に、三重県の有機農家で堆肥づくりのセミナーを受講。

現在 (就農2年目)

- 有機野菜 (60種類以上) 60a
水稻・黒大豆も有機栽培開始
- ・ 農業を営む実家の近隣に「農場なつめやし」を立ち上げ独立。
 - ・ 地域の方に向けた家庭用の野菜セットを中心に、地元の直売所出荷や飲食店との取引にも力を入れる。

今後の目標 (就農5年後)

- 有機野菜80a、有機水稻50a、
有機黒大豆20a
- ・ 新鮮な旬の野菜をイベント出店などで販売することでファンを獲得し、野菜セットの定期販売を行うことで安定した販売へとつなげる。
 - ・ 安全安心で、美味しい作り手の見える野菜を通して地域を盛り上げたい。

山本 敏貴 さん (34歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

親が柿の専業農家であるため昔から農業は身近ではあったが、就農しようとは考えていなかった。大学卒業後に民間企業に8年勤めていたが、家族との時間を大切にしたいと思い退社。家業の手伝いをする中で、「農業はやり方次第で儲かる！！」と実感し就農を決意。奈良県の研修制度を活用し、令和4年に親とは別経営体として経営開始。

導入した機械・施設等

- ・加温機
- ・光合成促進機
- ・養液灌水装置
- ・換気装置



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・生産性向上と作業省力化を最優先としたため、投資額は大きくなるが施設や導入機器のスペックについて妥協はしなかった。
- ・鋼材価格の高騰により、パイプハウスや高設ベンチの金額が以前に比べてかなり高額になっており、投資額を抑えるため、ハウス建設を自分で行った。

導入の効果

- ・ハウス内環境（温度、湿度、炭酸ガス濃度等）を最適化することで、収量の増加と病害虫の発生抑制等につながった。
- ・高品質なイチゴ生産ができたことで販路が拡大し、計画以上の売上を達成できた。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4）

- ・奈良県の研修制度を活用し、先進農家の下で研修開始。
（R3年7月～R4年6月）
- ・円滑に就農できるよう、融資や農地貸借の手続きなど、計画的に準備を進めた。
- ・令和4年7月に経営開始。

現在（就農2年目）

- ・イチゴ18a（高設）
- ・農業収入は約3,500万円。
（経営開始資金を除く）
- ・規模拡大に向けて農地の目処がついたため、早期に認定農業者に移行し、スーパーL資金等を活用して16aの増設を計画中。

今後の目標（就農5年後）

- ・イチゴ74a（高設）
- ・法人化し、人材が通年雇用できる環境を整え経営の安定化を図る。
- ・環境モニタリングに基づく制御等を行うこと等により、単収・品質の向上を図り、農業収入1億円を目指す。

畑 篤志 さん (26歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

子供のころから親の柑橘栽培を見たり、手伝いながら育ってきました。代々続く農業経営を継承することを考え、国立研究開発法人 農研機構果樹茶業研究部門興津カンキツ研究拠点で常緑果樹について学びました。令和元年から親の経営に従事し、令和4年に経営を継承して、経営管理の合理化と規模拡大等を進めるため農業法人を設立しました。

導入した機械・施設等

パイプハウス3棟12a
(無加温)



初期投資を行う上で留意したポイント

- 農業経営を安定させるため、現在栽培している露地柑橘と収穫時期が異なり、高単価で販売できる無加温レモン栽培に取り組むこととした。
- 施設による早出しレモンの収益と、施設整備にかかる費用対効果を十分に検討した。

導入の効果

- ハウス栽培によって労力分散が可能となり、経営の安定が見込める。
- ハウス栽培では、レモンに多いかいよう病の発生が抑えられ、また、露地栽培と比較すると、出荷時期が早く高単価が期待できる。

就農の状況と今後

就農準備 (H29~30)

- 農研機構果樹茶業研究部門興津カンキツ研究拠点で、柑橘の栽培に関する技術を取得。
- 大型特殊、フォークリフト、バックホー、毒劇物取扱いの免許取得。

現在 (経営継承2年目)

温州みかん155a
中晩柑129a
施設レモン12a

- 経営発展支援事業を利用し、ハウス3棟を新設、レモン栽培を開始。
- 農業収入は約1300万円。

今後の目標 (経営継承5年後)

温州みかん175a
中晩柑130a
施設レモン12a

- 規模拡大(約1.1倍)を行い、所得向上を図る。
- 作業の効率化、栽培スキルの向上を図る。
- 農業収入は約1650万円。

匿名希望さん (29歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

高校生の時から漠然とではあったが農業に興味を持ち始め、大学は農学部系に進み農業について学んだ。

父の仕事の関係で千葉県から父の出身地である島根県へ移住をした時に町でミニトマトを推奨していることを知った。

栽培方法は施設での島根型養液栽培であり、女性でも就農しやすいと思い親子（母と）での自営就農を決意。

導入した機械・施設等

- ・二酸化炭素施用機
 - ・選果場
 - （コンテナハウス）
 - ・動力噴霧器
- ※パイプハウスはリース



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・収量向上に直結する機械は就農時に整備するべきと考えた。
- ・働きやすさ（期間パートを雇用することもあるので）も重視し、上下水道の引き込み・トイレの設置を行った。

就農後は栽培以外の事に時間をかけることが難しいことや物価高騰の情勢を踏まえ、初期投資の優先順位を考えた。

導入の効果

二酸化炭素施用機の導入効果として、

- ・周りの農家と比べて、収量が多かった。
- （周りの農家は二酸化炭素施用機を導入していない）
- ・ミニトマトの実つき色づきがよかった。

就農の状況と今後

就農準備

（R3年3月～R4年10月）

- ・町内のミニトマト農家の見学。
- ・島根県立農林大学校短期養成コースで1年勉強（座学では経営や経理、農業の基礎知識等。研修は町内の農家）。
- ・役場の担当部署や県・町の普及員、JAから営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農1年目）

- ミニトマト10.8a（ハウス3棟）
- ・サンチェリーピュア（2棟）
- ・アンジェレ（1棟）
- ・R5年2月に親子で経営開始。
- ・国・県の補助金、青年等就農資金を活用して機械や施設、資材を購入。

今後の目標（就農5年後）

- ミニトマト10.8a
- ・二期作に取り組む。
- ・高品質な作物かつ小規模でも生産性の高い農業を目指す。
- ・栽培技術の安定と共に販路開拓にも取り組み、労力の軽減や収益向上につなげる。

農事組合法人にじいろファーム

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

農業関連の仕事に在職しながら、いつか自分でも農業をやってみたいという気持ちを持っていた。そんなとき、ぶどう部門を廃止したいという農業法人があるという情報を偶然聞いた。その法人の代表に継承したい旨を伝えたところ、「この人になれば」と承諾をうけ、ぶどう部門を継承することができた。

導入した機械・施設等

- 自動草刈り機 1台
- 乗用草刈り機 1台



自動草刈り機

初期投資を行う上で留意したポイント

- 経営開始前に、営農計画や販売計画を作成した。
- 計画を練った上で、必要な機械・施設は積極的に導入した。
- 関係機関に相談し、導入する事業及び機械を決定した。

導入の効果

- 2種の草刈り機を導入し、刈払い機に比べ、作業が楽になった。特に、自動タイプは、遠隔地からスマートフォンで操作でき、作業も充電も自動であるため、他の作業と同時並行できるようになった。その分、管理作業の時間を確保でき、早期の収入確保につながった。
- 今後は、初年度の経験をもとに導入機器を活かした作業体系の効率化を進めるとともに、収益性の高い品種への改植を行い、さらなる経営発展を目指す。

就農の状況と今後

就農準備(R2~R3)

- 農業関連の仕事をしてながら、就農を検討しつつ、知識や技術を身につけた。
- 経営継承のため、法人や地権者と協議
- 関係機関と設備投資内容や補助事業についての打合せを行いながら、営農計画を作成。

現在(就農1年目)
ぶどう(5品種) 合計156a
収益性の高い品種割合：18%

- 事業で草刈り機を導入し、効率の良い作業体系を組んだ。
- 法人化。
- 継承した園地は、収益性の低い品種が大半を占めているため、計画的に改植を進めている。

今後の目標(就農5年後)
ぶどう(5品種) 合計156a
収益性の高い品種割合：46%

- 収益性の高い品種の割合を増やす。
- 販路拡大(産直市・ECサイトでの販売など)。
- 従業員を増やし、規模拡大や他品目の導入を目指す。
- 農業所得の目標は、338万円。

匿名希望さん (48歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

家庭菜園で農業の楽しさに気づき、本格的に農業を行いたいと思い農村部に移住。先輩農家の手伝いの傍ら、地元直売所に農産物を出荷、自分が育てた野菜が売れることに喜びを感じ、本格的に農業に参入を決意。

導入した機械・施設等

- ・トラクター45ps
- ・アップカットロータリー



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・売り先を確保し、初期投資に資金を最大限投入し、作業効率を最優先する。
- ・余剰資金が出てきたら設備投資に積極的に振り分ける。
- ・最低限1年間は収入がなくてもいいように、手元資金も確保しておく。

導入の効果

- ・トラクターを導入することにより、適期作業が可能となった。
- ・アップカットロータリーは、耕耘と畝立てが同時に実施できるので、作業時間が短縮できた。また、排水性や生育ムラの改善にもつながった。
- ・導入した機械を有効活用し、規模拡大を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (R3~R4)

先輩ねぎ農家のもとで修業一通りの作業を経験。畑の片隅を借りて、栽培の練習と販売の経験を積む。その際に、栽培品目の選定を行った。

現在 (就農1年目)

- ・露地野菜 (ネギ) 80a。
- ・直売所を中心に飲食店等販路拡大。
- ・葉ねぎ、太ねぎの周年栽培を行っている。

今後の目標 (就農5年後)

- ・露地野菜 (ネギ80a、レタス10a、サツマイモ10a)
- ・飲食店、加工用需要を取り込み法人化を行う。
- ・地元農業法人と協業して、栽培品種の多様化と販路拡大を図っていく。
- ・農業所得目標は220万円。

川嶋 雄一さん・恵さん（38歳・25歳）（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

東日本大震災や新型コロナウイルスの流行の際、第一次産業の強さや重要性を改めて実感した。農業を始めたいと思った時に海部きゅうり塾の取組を知った。海部きゅうり塾では新規就農者に対するカリキュラムが充実しており実績もあるため、自身も農業で独立したいと考えた。

導入した機械・施設等

- ・トラクター17馬力 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

トラクターを導入するにあたり、ハウスの規模に合った能力のものを選定するために先輩農家、JAに相談した。

導入の効果

稼働日数は少ないが、必要なときにいつでも気を遣わず使用できるので導入して良かった。トラクターの能力もハウス内を耕運するには十分であり、相談しておいて良かったと感じる。

就農の状況と今後

就農準備（R2～R4）

海部きゅうり塾で技術・知識を取得。

- ・令和2年に研修開始。
- ・JAや普及指導員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農1年目）

水耕キュウリ18a
（ハウス1棟）

- ・妻と共同で農業経営を開始。
- ・反収は「JAかいふ促成きゅうり部会」平均の20tを達成。
- ・農業所得は100万円。

今後の目標（就農5年後）

- ・反収25tを目指す。
- ・目標所得200万円。
- ・作業効率を上げ、仕事とプライベートの両立を図る。

松本 昌人 さん (40歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

フランス料理レストランで料理人として働いているときに農家さんから食材を仕入れたり、直接畑で収穫させてもらっているうちに、料理をつくるより野菜を作りたいという思いが出てくるようになったため。特に思い入れのあるトマトを作りたいと思い就農を決意。妻の実家のある愛媛に移り、研修センターに通い実際に就農に至る。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス 6連棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・計画していた作型は半促成からの夏秋のような長期栽培なので、まず夏の暑さ対策ができるハウスにすること。
- ・計画時点で設備費用がかなり高額だったため、最低限の設備にしぼり、ゆくゆくは経営状況によって少しずつ増設できるように施工業者と相談しながら初期投資を行った。

導入の効果

今年の夏の暑さは特にひどいものだったが、ハウス内は外気温より1～2度低く保つことができた。

就農の状況と今後

就農準備 (R2～3年)

- ・新規就農センターで基礎的な栽培技術を学ぶ。
- ・JA指導員と相談しながら営農計画を作成。
- ・トマト農家やハウス施工業者に栽培及びハウスのデザインについて相談。

現在 (就農2年目)

- ・土耕トマト10a (ハウス6連棟)。
- ・トマト栽培を中心に、冬場に花木、パセリを栽培。経営の安定化を図る。
- ・ハウスが空く時期に収益を上げるため、そこで栽培できる作物を模索。

今後の目標 (就農10年後)

- ・土耕トマト15a。
- ・トマトを中心に露地野菜も生産し、レストランなど直販に着手。
- ・格外品は加工をして無駄なく販売できる経営をする。

西村 郁弥 さん (38歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

肥料関係の企業に勤めていたため、農家との接点も多く、徐々に農業への関心が高まっていった。業務で施肥試験の調査等を経験する中で作物栽培の楽しさを感じ、自分も農業をやりたいと思うようになった。

導入した機械・施設等

- ・ニラそぐり機



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始前から農業経営を行っていた義父とも調整を行い、活用できる農地や農業機械等を準備していき、そこから他に必要な初期投資費用を精査していった。

導入の効果

多くの人役と時間が割かれるそぐり作業の効率化を図ることができ、他の作業に充てられる時間ができた。そのため、今後の規模拡大も具体的に検討することができるようになり、青年等就農計画の目標達成に向け取り組みを進めている。

就農の状況と今後

就農準備 (R3～4)

- ・高知県農業担い手育成センターや研修受入農家から知識や技術を習得。
- ・JAや普及員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。



現在 (就農1～2年目)

施設ニラ20a (ハウス2棟)

- ・義父より農地及び中古ハウスを取得し、妻と共同で農業経営を開始。
- ・農業所得は約70万円。
- ・農業収入は2,018万円。



今後の目標 (就農5年後)

施設ニラ40a (ハウス3～4棟)

- ・農業所得の目標は400万円。
- ・6年目以降でさらに規模拡大していく(60a程度)ことを目指す。その際には雇用も検討する必要があるため、労務管理なども習得していきたい。

松本 恭平さん (34歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

趣味がアウトドアであり、いつかは屋外でできる仕事がしたいと考えていた。民間企業に勤務していたが、コロナ禍での働き方の変化を機に、就農を決意。妻が福岡育ちということや、仕事と趣味を両立できる環境が揃っていたことから、福岡県に移住し、農業大学校等で栽培技術を学び、令和4年から経営開始。

導入した機械・施設等

- ・トラクター
- ・自動谷換気装置
- ・炭酸ガス発生装置



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・農業大学校在学中から、市やJA、普及指導センター等に相談し、積極的に情報収集を行ったことで、中古の空きハウスを借りることができ、初期投資を抑えることができた。
- ・将来にわたって農業経営を続けていくために、必要な機械や施設を考え、関係機関に相談して、投資計画や営農計画を十分に練った上で導入した。

導入の効果

- ・トラクターや自動谷換気装置の導入により、作業の効率化が図られたことで、適期作業の実施につながっている。
- ・炭酸ガス発生装置の導入により環境制御に努めることで、栽培期間を通じて収量・品質の高位安定化が図られている。
- ・作業の効率化と収量・品質の確保に努めながら、計画的な規模拡大を目指したい。

就農の状況と今後

就農準備(R3~4)

- ・地元自治体の研修プログラムで、3品目の栽培を経験し、自分に合う品目を選定。その後農業大学校で1年間研修。
- ・研修中から関係機関に相談し、空きハウス等の情報を収集。
- ・JAや普及センターから営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。



現在(就農1年目)

施設ナス12a

- ・営農計画の目標を大きく上回る生産量を達成。
- ・主にJAの選果場を活用、一部直売所でも販売。
- ・JAや普及指導員による技術支援体制
- ・JA青色申告会で経営管理。



今後の目標(就農5年後)

施設ナス24a

- ・収量と品質を確保しつつ、雇用を導入し、面積を拡大して所得向上を目指す。
- ・機械、施設の導入や栽培技術の研鑽に努めることで、作業の省力化を図る。
- ・農業所得の目標は350万円。

匿名希望（夫婦）さん（49歳・44歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

県外で農業とは異なる仕事をしていたが、いずれは夫婦で自営業を営み、自然豊かな土地で生活したいと思っていた。

そのような中、佐賀市トレーニングファームの存在を知り、体験研修を受け、農業で生計を立てていこうと決意。高齢になっても続けやすく、佐賀市富士町の中山間地で通年栽培が可能なハウレンソウ生産に魅力を感じた。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス（リース）



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始前に営農計画を作成。事業活用によるハウスや井戸の整備、また中古ハウスを利活用することで経費削減に努めた。
- ・機械や施設を導入する前に、地域の先輩農家や市担当者等に相談し、過剰投資をしないよう努めた。

導入の効果

- ・初期費用を抑えるとともに、研修終了後、スムーズに営農を開始することができた。
- ・今後も技術向上、安定生産に努め、部会平均以上の収量確保を目指す。

就農の状況と今後

就農準備・研修
(R3.1~R4.12)

生産者・JA・市・普及センターが連携して農地や施設の取得、補助金活用等について支援！

現在（就農2年目）

今後の目標（就農5年後）

- ・佐賀市トレーニングファームで2年間研修し、ハウレンソウ栽培の基礎や経営ノウハウを習得。
- ・農地の貸借は生産者・JA・佐賀市が協力し対応、円滑な貸借が実現。

- ・研修終了後、ハウレンソウ約23a（作付面積）で農業経営を開始。
- ・夫婦で役割分担しながら営農。
- ・研修で学んだことを生かしながら、ハウス管理を実施。

- ・ハウレンソウ約33a（作付面積）に規模拡大
- ・経営分析を行い、収益性を高める。
- ・規模拡大を行い、農業所得目標400万円を目指す。

匿名希望さん (36歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯

- 平成27年 長野県の農家に勤務し、農業の楽しさ、やりがいを実感。独立・自営就農を検討
- 令和3年 技術習得支援研修を受講し、農業経営や栽培管理等の基礎知識を習得
- 令和4年 経営開始

導入した機械・施設等

- ・トラクター（24馬力）



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・技術習得支援研修先の農家に相談し、将来的な栽培品目、経営規模等を考慮し、トラクターの機種等を選定した。
- ・初期投資額を抑えるため、技術習得支援研修先の農家、市、JA、普及指導センター等で情報収集を行い、中古ハウスを取得した。

導入の効果

- ・トラクターの導入により、にがうりの管理作業を適期に実施することが可能となった。
- ・就農5年後までに単収向上及び規模拡大を進めながら、農業所得250万円以上を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4）

- ・令和3年に長崎県の技術習得支援研修を受講。
- ・マンツーマン研修の農家先で、にがうり栽培の基礎を習得。
- ・市、JA等の支援のもと、青年等就農計画を作成
- ・研修中は、就農準備資金を活用。

現在（就農1年目）

- ・中古APハウス10aを取得（貸借）し、にがうり栽培を開始。
- ・経営発展支援事業を活用してトラクターを導入。
- ・にがうり栽培面積10a
- ・単収：2t
- ・農業所得：20万円

今後の目標（就農5年後）

- ・にがうり栽培面積：20a（目標）
- ・単収目標：6t以上
- ・農業所得目標：250万円以上

福本 巧さん (27歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

幼少から祖父が農業をしている姿を見ていて、小学生の頃から就農したい気持ちがあった。農業高校と専門学校で様々な農家の経営を学び、卒業後はイチゴ農園に勤務。新規農場立ち上げに携わるなど、栽培技術から経営管理面に関しても様々な経験を積むことができた。また、販売について、当農園のバックアップによる販路の確保も見込めたことから、地元での就農を決断した。

導入した機械・施設等

- ・ビニルハウス15a、自動換気
- ・暖房機類一式
(暖房機、重油タンク、防油堤)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・作物に合った施設の検討。イチゴハウスは台風被害のリスクは低く、必要強度を見積って部材を選択する等、コストダウンを図った。
- ・融資制度の利用においては、償還が続けられるかをよく考えて、真に必要な機械、施設の導入に絞り、初期投資を抑えた。
- ・補助制度は大変有用だが、事務スケジュールが合わないとならば就農開始時期が遅れるなどのリスクもある。様々な状況変化に対応できるよう、代案も検討していた。

導入の効果

- ・気象条件に影響されづらいハウス設備の導入による安定生産。
- ・自動換気の同時整備により、管理の省力化。
- ・2棟目のハウス導入が早期に実現したことによる経営発展加速。

就農の状況と今後

技術習得(～R2)

- ・農業高校、専門学校で学習。
- ・イチゴ農園で生産技術を習得。
- ・新規農場事業で農場長を務め、生産・労務管理、営業等を経験。

就農準備(R3)

- ・就農相談を開始し、サポートチームと連携し、計画を作成。

就農(R4)

イチゴ30a(ハウス2棟)

- ・融資と当事業を併用する計画に変更。
- ・青年等就農資金で、1棟目のハウス(15a)を早期に建設。
- ・当事業で、当初3年目導入予定だった2棟目(15a)を前倒し整備し、経営を拡大。

現在(就農2年目)

イチゴ30a(ハウス2棟)

- ・青年等就農計画2年目の目標を達成見込み。

今後の目標(就農5年後)

イチゴ30a(ハウス2棟)

- ・青年等就農計画の目標を達成。
- ・その後の規模拡大、法人化、観光農園経営等も視野に、農地と人材の確保や経営計画の検討を進める。

匿名希望さん (50歳) (※就農時49歳) (営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

モノを作る・育てるが好きな事、自然や緑が好きである事、体を使った仕事に憧れていた事、自身の生活リズムに合わせた働き方がしたい事、中年層の未経験者でも新規参入のサポート体制が充実している業種である事など、様々な観点から総合的にみて興味のある業種であったため、就農を決意し、就農コーチのもとで栽培技術を2年間学び、令和5年に経営を開始。

導入した機械・施設等

- ・トラクター一式



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始前に計画を作成していたが、将来にわたって安定した経営を行うために、初期投資でしっかりとした生産基盤を整える必要があると考え、必要な機械・施設は積極的に導入した。
- ・機械・施設を長期間利用することを見据え、整備する内容について経営開始前から就農コーチ等に相談した。

導入の効果

- ・トラクター一式を導入することにより、安定出荷に繋がる生産基盤を整備することができた。
- ・今後は、新たな品目も導入しつつ、段階的に規模を拡大し、就農5年後には農業所得283万円を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (R3~4)

- ・就農コーチのもとで技術を取得。
- ・関係機関から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- ・農業機械の作業免許取得。

現在 (就農1年目)

パセリ11a

- ・事業でハウスを22a新設し、就農。
- ・妻や両親に手伝ってもらいながら農業経営を開始。

今後の目標 (就農5年後)

パセリ30a、その他10a

- ・3年目に雇用を導入。
- ・4年目にハウスを増設するとともにその他品目の栽培に着手。

中島 笑里 さん (27歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

県外で医療関係の職についているときに、偶然、野菜の収穫体験をする機会があり、それをきっかけに農業の魅力と将来性に心惹かれていった。

「せっかく農業を始めるなら、生まれ育った宮崎で、自分が1番好きないちごを育てたい」と思い、就農を決意。

導入した機械・施設等

- ・育苗ハウス 1棟
- ・育苗ベンチ 6列
- ・電照設備、灌水設備
- ・防除機 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・初期投資額を抑えるため、ハウスは第三者継承により取得。
- ・必要な機械・施設については、研修先の先輩農業者やJA指導員に相談しながら選定し、投資計画を練った上で導入した。

導入の効果

- ・ハウスの隣接地に育苗ベンチを整備したことで、作業の省力化、効率化を図ることができ、安定した苗生産につながった。
- ・電照設備の導入により、均一した株を生育することができ、安定した品質での収量を確保することができた。

就農の状況と今後

就農準備 (R3)

- ・宮崎県の認定する研修機関で研修。
- ・研修先や県など関係機関からアドバイスを受けながら、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

いちご (高設)
おいCベリー 10a

- ・経営発展支援事業とあわせて市の補助事業も活用し、農機具等を取得。
- ・JA部会に所属し、技術指導員や周辺農家から助言を受けながら、独立で営農を開始。

今後の目標 (就農5年後)

いちご (高設)
おいCベリー 10a
やよいひめ 17a

- ・経営の安定化に向けて、規模拡大・他品種の生産を行う。
- ・適切な温度管理を徹底し、良品質で出荷することにより、所得向上を目指す。